

石川町の史実

題字：有波良枝さん

鶴屋呉服店

今回は鶴屋呉服店について紹介する。かつてこの石川町には鶴屋呉服店があったのをご存じだろうか。鶴屋呉服店は現在の東京・松屋デパートの前身であり一八六九〜一九二三年の関東大震災が起こるまでの四十四年間、ここ石川町で営業していた。鶴屋呉服店は百貨店の前身として亀の橋に大建築を誇っていた。豪華な商品がぎっし

りと並べられていたことも地域住民にとっても驚異であった。現在の石川町駅から一五〇mほど離れたところに位置していたため、交通の便が良くにぎわいをみせていた。当時から駅周辺の地区が石川町の中心であったことがうかがえる。しかし、関東大震災の影響で全館が炎に包まれてしまった。硝子石を透して花嫁衣装が真っ赤に燃えて、階下に落ちていくさまが、お釈

掲載日：二〇一三年二月一五日
記事作成者：明治大学商学部
中川ゼミナール
石川町プロジェクト



迦様の国の出来事のように、ようやく明けていく鋼の陽に美しく澁に映える。川向こうの弥次馬の波に押されながら、幼児の思い出として忘れられない光景として心に残っている。と地元の人話す。大正の初期に鶴屋呉服店、現在の松屋が焼失

したことは、ここを軸としていた付近の地区に重大な転機をもたらしたといえる。鶴屋呉服店はその後修復することなく中区伊勢佐木町に進出したため、地元石川町の斜陽化に拍車をかけることになった。現在鶴屋呉服店は海外に五店舗を展開する大手デパートとなっている。

グルメレポート 木の芽

第四回は石川町商店街の中にあるお蕎麦屋さん「木の芽」に行かせていただいた。淡い



クリーム色を貴重とした建物に白い暖簾がかかった外観は人々を魅了する。扉を開けると明るい光に包まれ清潔感がある店内は安らぎを覚えた。

今回はかしわせいろゝと彩りそば(左下)をいただいた。かしわせいろはつけ麺スタイルのお蕎麦で、つるっとした麺に鰹節でだしをとったつゆがよく絡みとてもおいしい。また具材もボリューム満点だ。彩りそ



ばは、なめこ、山菜、とろろの三種類を味わうことができ、見た目がとてもきれいで女性に嬉しく、また一つ一つが木の芽のこだわりの味わいを楽しむことができる。お店のこだわりでもある創業四十三年間変わらないうつゆの味に、北海道産の北空知をつかったのど越しのよい麺との組み合わせは絶品であった。ぜひ、木の芽に足を運んでみてほしい。